



多文化共生のための教育とは ～若い世代と共に考える～

参加無料
定員30名

日本、中国、ペルー、朝鮮など多様なルーツを持つ若手スピーカーと共に、"多文化共生"について教育の視点から一緒に考えてみませんか？



星玖藤原愛紗 (しえいく・ふじわら・あいしゃ)
桜美林大学2年生リベラルアーツ学群に在籍し、国際協力と国際関係を専攻しています。母親はペルー人、父親はパキスタン人です。私は日本で生まれ育ちました。

車世鎮 (ちゃ・せじん)

幼小中高の15年間朝鮮学校に在籍しました。在籍中に日本の一般の高校、外国にルーツを持つ同年代の学生たちとの交流活動や、神奈川朝鮮中高級学校文化交流祭実行委員長などを経て現在は明治大学現象数理学科の学生です。ポリシーは「合理的に平等に」としています。



天野萌 (あまのもえ)

中国出身、小学校4年生の頃に来日。その後、中学受験をしたため、周りは日本の方しかいませんでした。大学生になり、初めて日本社会の現状を知り、多文化社会実現に関心を持つようになりました。現在は明治学院大学で経済の勉強をしています。

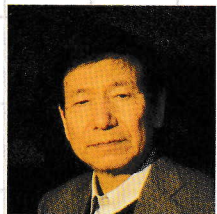
白聖嬰 (はくせいしょう) / 佐々木聖嬰 (ささきせいしょう)



中国遼寧省出身、2012年3月来日。フリースクールで日本語の勉強をし、翌年県立鶴見総合高等学校に入学。2016年、神奈川大学外国語学部入学。高校卒業後、県立高校での通訳ボランティア活動を通じて多文化共生に関心を持ち、外国籍県民かながわ会議第10期委員や横浜市国際交流協会・鶴見国際交流ラウンジのスタッフ等を務めています。2019年8月末、中国籍で、横浜市職員採用試験に合格し、来年から勤務。

【ファシリテーター】

◆山根俊彦 (やまね としひこ) (認定NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ理事)



1979年に神奈川県立高校の教員になり、そこでの在日コリアン生徒との出会い以来、外国につながる生徒たちの支援にかかわる。現在は、NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ(略称ME-net)若者交流事業担当理事。また、神奈川県立高校で、非常勤講師として在県外国人等特別募集で入学した生徒たちの「個別対応(取り出し)授業」の担当と多文化教育コーディネーターを兼任している。現在、横浜国立大学都市イノベーション学府博士課程後期に在籍し、多文化共生教育の研究をしている。共著に『まんがクラスメイトは外国人』第1集、第2集(明石書店)など。

◆柳晴実 (りゅう・ちよんしる) (外国籍県民かながわ会議元委員/NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター)

大阪で生まれた在日朝鮮人3世。小・中・高と朝鮮学校で学び、大学生の時に大阪の公立学校に設置された「民族学級」に出会う。その後「民族講師」としていくつかの公立小中学校の「民族学級」に15年間携わった。

公立学校に通う韓国朝鮮につながりがある児童生徒に、言葉や文化、歴史などを教えるとともに、学校内の国際理解教育・多文化共生教育に、教職員とともに取り組んできた。現在、NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンターの事務局スタッフとして、神奈川県外国籍住民のすまいや生活をサポートしている。

多文化共生教育の推進に関心があり、横浜市内の公立学校で多文化共生教育の授業に講師として関わり、2016年から外国籍県民かながわ会議第9期委員、第10期の副委員長を務めた。3人の子どもを持つオモニ(母)でもある。

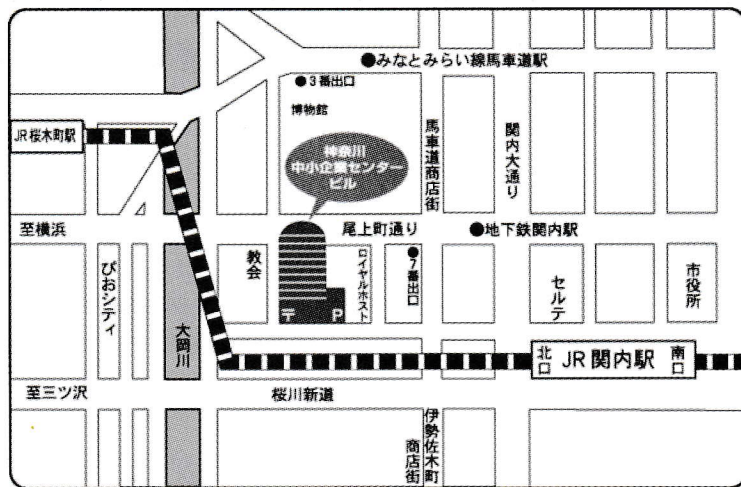
【主催】(公財)かながわ国際交流財団

【共催】神奈川県、NPO法人かながわ外国人すまいサポートセンター

【後援】ヘイトスピーチを許さないかわさき市民ネットワーク/一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト/NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ/NPO法人WELgee



【アクセス】 JR/地下鉄「関内駅」より徒歩5分



【申込み】 メールまたは Fax にて、①氏名、②所属、③住所（市町村名まで）、④ご連絡先（メールアドレス等）、⑤本シンポジウムを知った媒体、⑥多文化共生のための教育として求められるもの（任意記入）について記載の上、12月8日（日）までにお申込み下さい（先着順／定員30名）。

※今回のシンポジウムお申込みにあたってご記入頂いた個人情報は当財団のみが取扱い、本シンポジウムの事務連絡以外の目的には使用致しません。

【申込先】 メール：entaku@kifjp.org

Fax: 046-858-1210

【お問合せ】（公財）かながわ国際交流財団 湘南国際村学術研究センター（西山・清水）

TEL：046-855-1821

【当日スケジュール】

時間	内容
13:30～	受付開始
14:00～（10分）	開会&あいさつ
14:10～（50分）	パネルディスカッション
15:00～（15分）	休憩
15:15～（60分）	各テーブルでの意見交換（ディスカッション）
16:15～（40分）	各テーブルの意見共有
16:55～（20分）	まとめ
17:15～	閉会あいさつ

【趣旨】

グローバル化に伴い地域の多文化化が進む中、神奈川県では多文化共生における様々な課題が見られます。また、2019年4月には、外国人労働者の受入れ拡大を目的とした改正入管法が施行されました。このような背景を踏まえると、今後さらに多文化共生社会を築き上げていくためには、異なる背景を持つ人同士の信頼関係を構築しながら、多様な人と協働する姿勢や意識を育むことが重要ではないでしょうか。

第8次（2018・2019年度）21世紀かながわ円卓会議では、こうした趣旨のもと研究会を立ち上げ、神奈川県などの事例を通して研究者や実務家、ジャーナリスト、運営委員の方々と議論を重ねてきました。そして、今回のシンポジウムでは「教育」という切り口から、多様なルーツを持つ若い世代のスピーカーと共に、多文化共生を進める上で大切な視点について会場の皆さんと共に考えます。

【21世紀かながわ円卓会議運営委員会】（五十音順）

- ・小川 泰子（社会福祉法人いきいき福祉会理事長／ラポールグループ総合施設長）
- ・樺山 紘一（印刷博物館館長／東京大学名誉教授）
- ・黒田 玲子（東京大学名誉教授／中部大学総合工学研究所特任教授）
- ・高島 肇久（株式会社海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長）
- ・林 義亮（神奈川新聞社顧問／神奈川新聞厚生文化事業団理事長）

【21世紀かながわ円卓会議研究会メンバー】（五十音順）

- ・辰野まどか（一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）代表）
- ・山田貴夫（ヘイトスピーチを許さない川崎市民ネットワーク事務局）
- ・山根俊彦（NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ（ME-net）理事）
- ・柳晴実（外国籍県民かながわ会議委員／NPO法人すまいサポートセンタースタッフ）
- ・渡部清花（NPO法人WELgee代表）

